

メディア規制とジャパニーズカルチャー

G8 班

宮城県仙台第三高等学校

日本のアニメや漫画が日本文化として輸出され海外にもファンが多くなって久しい。日本のテレビアニメへの規制の弱さが文化の発展に役立ってきた。側面があると考え、海外と日本の距離が縮まる中で、日本のアニメがどう変化してきたか調べた。海外では子供向けアニメから喫煙シーンが排除されることが多いと知ったため、たばこをメインにおいて調査した。まず、長く続いているテレビアニメで、喫煙シーンが多くみられるものとして、「ルパン三世テレビスペシャル」(1989~2010) からキャラクターの喫煙シーンを数え、年による変化を調べた。また、喫煙に関する条約と日本国内での法律についても調べた。その結果、2010 に近づくにつれて喫煙シーンが減り、特に WHO のたばこ規制枠組み条約に批准してからは大きく減っている。キャラクターの発言などでも視聴者に禁煙を意識させる傾向がみられた。法律により、自由なアニメでの表現ができなくなることや、厳しいレーティングにより子供が素晴らしい作品を見られなくなったりしてしまうことがないように厳しすぎない規制が必要ではないか。

1 背景 (MS ゴシック 10pt)

日本で大人気の漫画「ONE PIECE」は海外でもアニメ化され放映されているが、その際に、暴力や流血、たばこ、露出といったシーンは、厳しい規制が行われているということを知った。例えば、ONE PIECE の主要キャラクターの一人でもある「サンジ」が吸っているたばこは、アメリカではチュッパチャップスに変えられていたり、ほかにも、鏡を割って手から血が出るシーンでは、鏡は割れず、手からも血が出ないように変えられていたりするようだ。このような表現は日本では許容されているが、海外では子供へ悪影響を及ぼすといった見解で規制されている。日本のアニメカルチャーは海外に感動とともに悪影響を与えてしまっているのではないかと考え、規制と法律の制定についてどのような相関があるのかを調べようと思いこの研究をするに至った

2 材料と方法

まず、私たちは規制される多くある種類の中で特にタバコと法律制定の関係について取り上げることにした。アニメ上で出てくる喫煙シーンをカウントし、年代ごとにグラフ化することでその相関を得られると考えた。その際比較するにあたってなるべく長い期間放送されているアニメと考え、尚且つ主要キャラクターがタバコを吸っていて比較的カウントしやすいものを検討したところ、老若男女に愛されるルパン三世を材料にすることに決定した。ルパン三世テレビスペシャルを 1989 年~2014 年までのうち計 17 本を (各 90 分) を鑑賞し、たばこが画面に映るたびに 1 としてカウントした。また、事前情報としていつどのようなたばこに関する法律が制定されたかも調べた。

1989年；たばこ白書制定

たばこ規制に関する世界保健機関枠組み条約の発効や受動喫煙対策強化の必要性等、たばこによる社会環境の変化について

1997年；厚生白書

初めてたばこに関する有害性が記載された

1999年；第52回世界保健総会（WHO総会）においてたばこ規制のために政府間交渉会議を設立することが決定

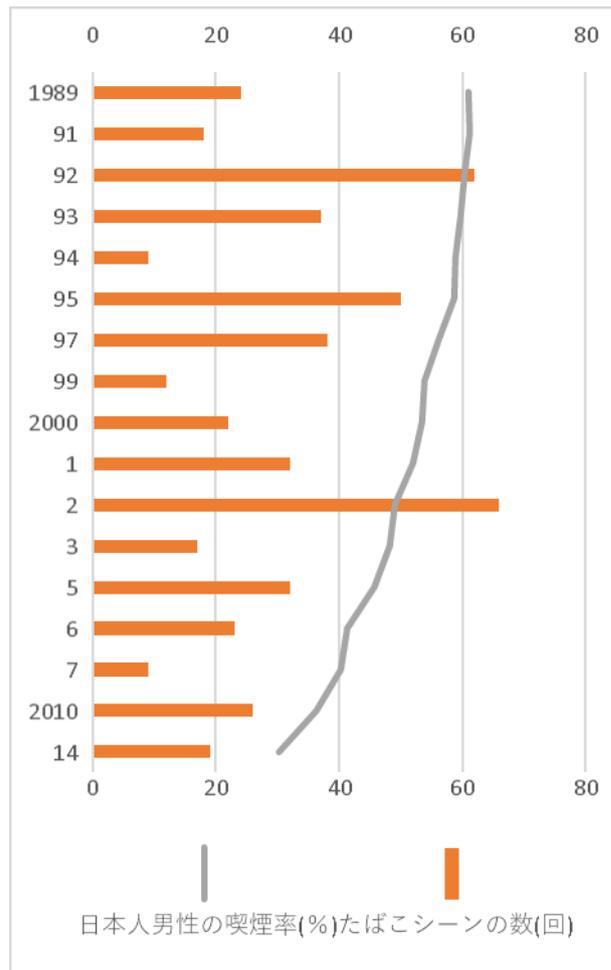
2000年10月～2003年2月計6回の会議が行われたたばこの規制に関する条約への同意が成立した。

2003年5月コンセンサスによって採択されその内容としては

- ①受動喫煙の防止
 - ②たばこの包装の30%以上を喫煙することでの被害についての警告に充てる
 - ③たばこの広告や販売促進について禁止または制限を行う
 - ④未成年者の喫煙防止のための措置をとる
- などである。

また以前アメリカで行われた、映像が子供に与える影響についての研究ではアメリカでは子供が喫煙を始める理由の44%が映画での喫煙シーンの視聴によるものと分かった。これらの子供が影響された喫煙シーンのうち半数が未成年向けの映画によるものであった。

3 結果と考察



棒グラフの縦軸がテレビスペシャルの制作年数、横軸がたばこシーンの回数を表している。折れ線グラフは日本人男性の喫煙率を表している。全体的に2000年代になるにつれて増減を繰り返しながらたばこシーンは減少傾向にあることがわかる。ここで日本での規制の取り組みを見ると1987年にはたばこ白書、1997年には厚生労働省が発表した厚生白書にたばこの有害性が記載されるなど規制の動きがみられた。世界規模でもWHO提案のたばこ規制枠組み条約が採択されるなど、このような規制は禁煙を啓発する効果があると分かった。なお2002年のデータが他と比較してグラフがとびぬけているのはこの作品がルパンの過去についてのストーリーだったため、ほかの作品よりたばこシーンの回数が多かったと考えられる。回数以外の観点では葉巻による喫煙は減っていたり、主要キャラク

ター以外の喫煙がみられなくなったりしていた。以上のことから法律が制定されるたびに喫煙シーンが減少していることがわかった。特に国際的な法律が制定されてからは禁煙を呼びかける広告が画面に映ったり、アニメの登場人物が禁煙を明言していたりと視聴者に喫煙を促さない配慮がされていた。ほかのアニメでも未成年者の喫煙シーンや病院での喫煙シーンに批判が寄せられるといった事態も起きている。世界的な啓もう活動によって、喫煙の危険性が認識されている証拠だといえている。しかしたばこを吸うことはキャラクターにとって重要な個性でありそれらの規制によって子供が素晴らしい作品を見られなくなることへの是非も問われている。規制が進む時代だからこそ規制への配慮と物語のエンターテインメント性を両立することが大切だといえる。

【参考文献】

文部科学省中学生喫煙防止教育用パンフレット
タバコに負けない 平成 16 年 5 月
内山三郎 テレビの喫煙シーン出現率に対する
健康増進法の影響 岩手大学教育学部研究年俵
平成 27 年 3 月 15 日
松崎道幸 総説映画の喫煙シーンはタバコを吸
う子供を増やす 日本喫煙学会雑誌第 8 巻第 4
号 平成 25 年